

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	経済学研究科
大項目	11 教員・教員組織(研究科)
中項目	
小項目	11.0.1 大学として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか。
要素	教員に求める能力・資質等の明確化 教員構成の明確化 教員の組織的な連携体制と教育研究に係る責任の所在の明確化
小項目	11.0.2 学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。
要素	編制方針に沿った教員組織の整備 授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みの整備 研究科担当教員の資格の明確化と適正配置(院・専院)
小項目	11.0.3 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。
要素	教員の募集・採用・昇格等に関する規程および手続きの明確化 規程等に従った適切な教員人事
小項目	11.0.4 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか。
要素	教員の教育研究活動等の評価の実施 ファカルティ・ディベロップメント(FD)の実施状況と有効性

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 学部と大学院教育との連携が図りやすいような制度設計を行う。研究活動における人的交流の一層の推進とそれを担保するための研究時間の確保し、研究費の再配分の工夫を行う。	→学部・大学院合併開講科目数とその履修者数と教員の学部・大学院を合わせた平均総授業担当コマ数(教員間の負担の平準化)。教員の研究業績数。	B	B	B	B	B
	→					
	→					

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 学部専門教育部会と大学院教育部会の連携によるカリキュラム策定の検討の結果、2012年度入学生より大学院と学部の合併科目を置き、2013年度より運用開始となった。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か これまで1名程度の開講であったものについて受講者数が増えることにより授業改善されたが、合併科目担当教員は学部生、院生2通りの評価方法を作成し、シラバスにも記述し、実際に2通りの評価を実施せねばならない負担が生じてしまった。 また、教員組織の編成方針が明確に定められていないため担当教科との適合性を評価することができていない。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 学位課程の趣旨を尊重する立場と担当者の負担を両立できる合理的な方法を、担当者個人ではなく学部・研究科の課題とし工夫する必要がある。 2013年度の認証評価の中で「努力課題」とされた「評価方法を課程ごとに明確に区別」すること求められているため、標準的な具体案を早急に提案し実施する。	☆
		その他	☆
備考			☆